書籍紹介

Change in the Natural Environment and Life in Oases of the Taklimakan Desert

高村弘毅 著

中国の西端タラム盆地の自然環境とオアシスの生活の変化についての著書が出版された。編者高村弘毅は、長年研究の自然環境についての調査を行い、多くの論文を発表している。この著書は同氏による研究の一つの集大成であるとも言える。本書は20章で構成され、37名の研究者（日本人18名、中国人19名）の研究を集大成したものである。ここで日本側は高村が学長を務める立正大学が中心となり、中国側は新疆大学の研究者が中心である。

本の題名は「タリム盆地の自然環境とオアシスの人々の生活の変化」と日本語訳して良くかもしれない。「タリム盆地」とは中国の西域の新疆ウイグル自治区のシルクロードのある盆地である。中心にタラム盆地があり、その砂漠と天山、昆仑山脈の境界のオアシスに、人々が主に農業を生産業として生活をしている。本書はこの地を対象として、水河地形、気候変動、それを証明するための地質構造の調査の結果を論述している。また、さまざまな湖と言われたドブノールの存在についても触れられている。タリム盆地の水文環境と湿潤活動による地形学についての調査も報告している。興味深いのはランドサットのデータから砂丘の含水量の予測、砂丘の形状の関係をつけようとしてみていることである。

乾燥地の植物の生態とその分布、その変遷と川の水量との関係を調査している。これはまた古代のオアシスの居留地の移動や生活様式の変化にも深い関係があることを示している。美しいカラーフの写真が掲載されている。本書では、主にタリム盆地内におけるオアシス、ニヤ川の表流水と地下水の水質等の関係も研究している。

人文地理学的な立場より、自然環境の変化と人間生活

地球環境問題が世界的な議論になってきている。2000年前に栄えたこの地を探求することでその答えが出てくるかもしれない。そんな中で本書がなぜ英文で書かれているかとも思う。中日両国の共同出版によるためであるが、本書には世界の人々にタリム盆地の現状を理解してもらいたいという筆者達の夢が託されているかもしれない。

新疆ウイグル自治区の地名は、私達日本人にとっては一つのロマンがある。本書の最後にこの地域の観光資源についても述べている。

乾燥地のもともと研究者のだけでなく、環境を論ずる研究者や、これから環境を研究しようとする若い研究者にとっては読むに値する書である。

（岡山大学大学院環境学研究科 西垣 誠）

B5判 205ページ（英文）
2005年発行
ISBN 4-8301-1058-9 C3025
定価 3800円（税別）
発行 文化書房博文社
〒112-0015 東京都文京区目白台1-9-9
電話 03-3947-2034